

おいでよ!地島に 漁村留学をしてみませんか!

令和4年度(第20期)

「漁村留学生」募集のご案内

あなたは、海は好きですか?魚は好きですか?小鳥は好きですか?もしそうなら、澄み切った青い海と空、緑の森に包まれた美しい島、ここ地島で漁村留学をしてみませんか?

そこには、慈愛に満ちた人情味あふれる島の人々(昔は「慈島」とも言われていたそうです。)との出会い、素晴らしく美しい自然との出会いが皆さんを待っています。

来年で20年目を迎える漁村留学は、豊かな大自然、島の人々との心温まるふれあいを通して、子ども達の自然や地域の人々、そして家族への思いやりの心を育みます。また、協同生活体験を通して、親への感謝の気持ちを深め、ものの大切さを知り、たくましく、そして、自立する力を伸ばします。

留学に関する募集要項、島や学校の様子等を以下に記載していますのでご一読ください。心からお待ちしています。

《募集要項》

1 受け入れの条件

- (1) 体験を通して自立性を養おうとする健康な4・5・6学年(令和4年度)の男女児童
- (2) 児童(本人)、保護者の双方が漁村留学の趣旨をよく理解し、熱意があること

2 募集人員 5~6名程度

3 留学期間 1ヵ年(令和4年4月1日~令和5年3月31日)

4 委託料

- 生活費として毎月4万5000円
- 他に各学期3万9千円程度(学校教材・給食費2万9千円程度、医療・お小遣い等1万円程度)

5 募集期間 令和3年10月1日(金) ~ 令和3年12月24日(金)

6 説明会 令和4年1月8日(土)予定 ※会場:宗像市立地島小学校

- 地島小学校や「なぎさの家」(漁村留学センター)等の現地見学
- 漁村留学に関する説明及び個別面談等

7 応募方法 右記「漁村留学を育てる会」事務局、または地島小学校までお電話ください。 受付後、詳しい資料等を郵送またはFAXします。

8 選考方法 応募者の多少に関わらず、選考委員会による厳正な選考の上、決定します。

主催 地島校区漁村留学を育てる会 後援 宗像市教育委員会

宗像市は福岡市と北九州市のほぼ中間に位置し、玄界灘に面した、文化や経済、交通の面において古くから大陸と日本を結んでいる要所です。世界文化遺産に登録された沖ノ島をはじめ、宗像大社、鎮国寺など歴史的な史跡も多く存在します。

地島は玄界灘と響灘の境に浮かぶ周囲9キロメートルの東西に長い島で、四季折々の鮮やかな色彩を映す山々があり、メジロ、ホトトギス、ウグイス、キジなど、鳥の宝庫でもあります。また、島内各所には約6000本のヤブ椿が自生し、春には美しい花を咲かせます。

現在、島の人口は約160名で、泊、白浜の2集落があり、ほとんどの世帯が漁業に従事しています。



《地島小学校の紹介》

泊港で市営渡船を降り、四季折々の草花あふれる県道を歩くこと約15分のところに、島で唯一の学校、地島小学校があります。令和3年度は1年、4~6年の3学級、児童数7名(漁村留学児童5名〈男子2名、女子3名〉を含む。)、職員数7名の小さな学校です。(令和3年9月1日現在)

地島小学校の教育目標は「人や社会とかかわりながら、学び続ける子どもの育成」です。その目標を達成するために、地島の自然・文化に学ぶ総合的な学習(海と関わる・椿と関わる・島の文化と関わる)に取り組んでいます。また、異学年合同学習と少人数指導・個別学習を組み合わせ、「他者と関わりながらなりたい自分になる力」を育成しています。

学校では、地域・PTAとともに、下の写真のような、島ならではの楽しい行事のほか、子ども達に豊かな自然・社会体験(魚釣り、魚さばき、地域交流等)を支援するための、多種多様な活動を行っています。

また、玄海中学校、玄海小学校、玄海東小学校とともに、「玄海学園」の一員として小中一貫教育を推進し、9年間を見通した子どもの育成や様々な交流活動を行っています。



《漁村留学センター「なぎさの家」の紹介》

泊港からすぐのところ、漁村留学センター「なぎさの家」があります。ここでは、子ども達のお世話をする指導員、寮母さんと一緒に、寝食をともにした協同生活を行います。「自分で出来ることは自分で、自分達で出来ることは自分達で」を基本方針にすえた規則正しい生活をしています。

応募・お問い合わせ先

「地島校区漁村留学を育てる会」事務局(なぎさの家)

- 所在地 〒811-3511 宗像市地島136-13
- TEL・FAX 0940-62-3394

※留守の場合及び昼間 宗像市立地島小学校(教頭まで)

- TEL 0940-62-1171 FAX 0940-62-1911



なぎさ通信

2021 年
10 月

地島校区漁村留学制度

平成一五年度から漁村留学制度が始まり、今年で一九年目を迎えることとなりました。漁村留学では、毎年、五、六名の留学生を受け入れ、漁村留学センター「なぎさの家」で指導員や寮母さんと共に一年間を過ごし、集団生活を通して、子ども達の基本的な生活習慣や規律、助け合う心、自立心など今後社会に必要な人格の形成を目指しています。今までにたくさんの子どもたちが漁村留学を卒業し、その多くが今でも夏休みや行事の際に島へ遊びに来る等、交流が続いています。

漁村留学第十九期生の半年

指導員 吉武萌奈美

松石 実恵

今年は、六年生一名、五年生一名、四年生三名の計五名（男子二名、女子三名）がなぎさの家で共同生活を送っています。この半年間、留学生たちは、慣れない場所での生活で不安も多かったと思いますが、地域の方や家族等たくさんの人に支えられながら、様々な体験を通して、日々逞しく成長しているように感じます。これからも互いに協力し合いながら、たくさんの人への感謝の気持ちを忘れずに、残りの留学生生活を大切に過ごしてもらいたいと思います。

楽しい留学生生活

夜のイカ釣り体験

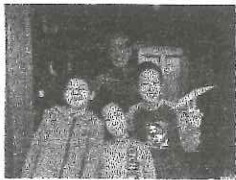
六月、漁師さんの船に乘せてもらい、夜のイカ釣りへ出かけました。釣り方などを教えてもらいながら、たくさんさんのイカを釣ることが出来、初めてのイカ釣り体験に子どもたちも大喜びでした。釣ったイカは、みんなで分けて、それぞれの家に持って帰りました。



ホームステイ

年に数回ホームステイがあり、留学生だけでなく地島の方のお家へ泊まらせてもらっています。

今年はまだ出来ていませんが、ホームステイ先では、お手伝いをしたり、一緒にご飯を食べたりしながら、交流を深めています。普段よりもゆつくり交流することができ、子どもたちも毎回、とても楽しみにしています。また、地域の方に、留学生のことを知ってもらおうとても良い機会でもあります。



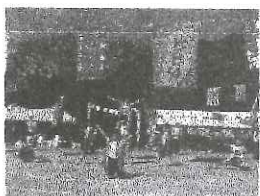
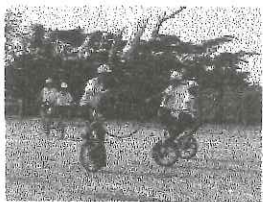
地島山笠

毎年七月十五日、地島では、伝統行事の一つである、地島山笠が行われます。今年は残念ながらコロナの関係で山笠自体は開催できませんでしたが、島の方々と一緒に飾りつけをさせていただきました。山笠のことを聞きながら、一生懸命に飾りつけをし、より地島山笠について知ることが出来たと思います。なかなかできない貴重な体験をさせてもらいました。



全島大運動会

九月十八日開催予定だった全島大運動会ですが、今年はコロナの為、延期となっております。毎年地島小学校の運動会は、島全体で行われるため、子どもから大人まで、楽しんで参加することができます。小学生は一輪車やソーラン節など、この日のために一学期からたくさん練習をします。特に一輪車は、初めは乗れない子もいましたが、日々練習を重ね、本番では上手に乗ることが出来て、子ども達の成長を感じることができました。



下校後、学校でもらった一枚のチラシを見せて、「これに行きたい。地島の漁村留学。」
こういったのは、小学校三年生の秋だったと記憶しています。

親子が同じ家で過ごす日常の中で、子どもが一年間留学するなんて、想像もできない上、漁村留学についての知識が全くなかったので、「まさか、うちの子が一年間も親元を離れて、漁村留学をするなんて。」と、初めは真面目に受け取りませんでした。子どもと話すうちに、「真剣なのかな」と感じるようになりましたが、まだ小学三年生だったこともあり、「一年待って、来年も同じ気持ちだったら、受験してみよう。」と先延ばしの提案。一年後、本当に受験して、留学することになるとは、その時は想像もしていませんでした。受験する直前まで、親として、子どもと離れて暮らす寂しさもあり、「受けても、受かるかどうかわからないし。」と考えていました。

小学四年生の冬、漁村留学の試験のために、親子で地島へ。この受験を通して、島の人々、先生方、多くの方々がこの漁村留学に真剣に関わり、島の人々の、「この留学を良いものにしたい」という強い思いが強く伝わってきました。

「これなら、子どもを留学させても安心だ。」と思えた一日でした。

知らない子どもたちが、ひとつ屋根の下で生活し、小さな学校に通う。留学中、ホームシックになったり、喧嘩をしたり、怪我をしたり、熱を出したり、いろんなことがあります。なぎさの家で一緒に過ごす指導員の先生、漁村留学を育てる会を始めとした島の人々、学校の先生が、我が子以上に子どもたちに向き合い、手助けしてくださり、状況を報告してくださいますので、親として心配することは一切ありませんでした。

留学中の一年間、一緒に留学した子どもたち、島の子どもたちに会うたびに、大きく成長していることを感じ、子どもが手を離れていく寂しさを感じると同時に、逞しさを感じる事が出来ました。離れて暮らしているからこそ、お互いのことを思い、感謝する気持ちに気づいたのだと思います。

なぎさの家での生活、小さな小学校での生活、島の人々との触れ合い、来訪する島外の人々との触れ合いなど、島でのすべての生活を通して、子どもたちは、一人で生きているのではないと感じ、周囲のすべてに感謝する心が大きくなったと思います。親子共に成長させて頂くことができ、この地島漁村留学はとても意義のある事業だと感じ、関わらせていただいたことに感謝しています。

一緒に留学した子どもたちと、その保護者は、留学を終えた今でも、手紙やメールで連絡を取り、近況を報告し合い、これからの子どもたちの成長を共に楽しみにしている特別な仲間です。私たちにとって、地島は特別な場所になりました。これからも、地島を訪れて、地島に関わっていきたいと思えます。

地島漁村留学の思い出

第18期漁村留学生（当時5年生）

私が地島漁村留学を知ったのは、3年生の時でした。学校でチラシが配られたのです。配られてすぐに「ここに行きたい！」と思い両親に相談しました。そしてその翌年に試験を受け、漁村留学に行くことになりました。初めの頃は、知らない子たち同士で一年間も生活していけるかと、とても不安でした。家族からこんなに長い間離れて生活することにも、寂しさを感じるときもありました。しかし、地島の楽しい生活のお陰で、一学期の半ば頃には、寂しさや不安なんてもう忘れていました。地島でたくさんの貴重な体験をさせてもらいました。

一つ目は、魚釣りです。私たちが住んでいた「なぎさの家」の前はすぐ海でした。魚がたくさん泳いでいて、釣れるときには百匹近く釣れることもありました。釣れた魚は、寮母さんが唐揚げや煮つけにしてくださったり、自分たちでさばいたりしました。とても美味しかったです。

二つ目は、地島小学校の個性豊かな学校行事です。全島大運動会や文化祭、ろ漕ぎ体験、地島ギネス大会などです。どれもとても楽しいです。全島大運動会や文化祭は七人の全校生徒で企画、練習などとても大変でした。しかし、達成感は格別です。三線という沖縄の伝統楽器を弾いたり、一輪車をこいだり、けん玉をしたり、練習することがたくさんありました。しかし、皆さんにみてもらい、喜んでもらえたときはとても嬉しかったです。

四つ目は、集団生活です。五人で生活するため、喧嘩や言い合いはありました。しかし、それでも一緒に暮らしていく仲ですから、最後は怒られたり、仲直りをしたりしました。そんな経験を積むたびに成長していている、という実感がありました。

地島留学でとても成長できました。洗濯物もたたむことが出来るようになりました。地島で習った三線はまだ続けています。そして、大人になって社会に出たときに必要なことを沢山学ばせていただきました。地島の島民の皆さんも私たちにととても良くしてくださいました。地島留学に行っていて本当に良かったと思います。この一年間の学びは一生役に立つ宝です。

地島校区漁村留学を育てる会

実行委員長 奥 正彦

地島漁村留学は、指導員の先生や地域の方々などの協力の下、今年で19年を迎えました。4月から留学が始まり、最初は不安でいっぱいの子ども達も地島の子ども達と一緒に勉強したり遊んだりして、少しずつ留学生活に慣れ、地島の自然の中、毎日のびのびと活気ある生活を送っています。

また、なぎさの家や学校での生活、地域行事への参加、年数回の地域の方々の家でのホームステイ等を通して、人を思いやる優しい心を持ち、挨拶の出来る子へと日々逞しく成長しています。

漁村留学を考えておられます御家族の皆様。親元を離れる一年間は本当に心配だと思いますが、是非お子様に地島での漁村留学をさせてみてはいかがでしょうか。関係者一同、心よりお待ちしております。

